

佐々木さんから県外研修の総体的な報告がなされましたので、私からは研修地で見られた植物についての報告をしたいと思います。研修地は三重県の南部にあたり、年間降水量も多く、暖流の黒潮も近くを流れ、比較的暖かい地方ですので、植物にとっては大変良好な生育地といえます。特に、暖温帯に多い常緑の広葉樹（照葉樹）にとっては格好の生育適地。滋賀県でほとんど見られない常緑の樹種がいくつか観察できました。植栽されたものも含めて、以下、写真で紹介します。

①12月12日 速水林業地「太田賀山林」内



イブセンリョウ

サクラソウ科イブセンリョウ属
関東南部～沖縄（暖温帯）



ハスノハカズラと果実

ツツラフジ科ハスノハカズラ属
関東南部～沖縄（暖温帯・亜熱帯）



テンダイウヤク

(クスノキ科クロモジ属)
中国原産、日本の暖地に野生化



ホウロクイチゴ

(バラ科キイチゴ属)
関東南～沖縄暖温・亜熱



オオバノハチジョウシダ

常緑性のシダ
関東以南の照葉樹林内

②12月13日 伊勢神宮別宮瀧原宮、外宮せんぐう館周辺



ルリミノキ

アカネ科ルリミノキ属
東海～沖縄（暖温帯・亜熱帯）



コバンモチ

ホルトノキ科ホルトノキ属
紀伊半島～沖縄（暖温帯・亜熱帯）



ミミズバイ

ハイノキ科ハイノキ属
東海～沖縄（暖温帯・亜熱帯）



トベラ

トベラ科トベラ属
東南北部以南の海岸、暖温帯



ゴモジュ

ワヅカヅカ科ガマズミ属
亜熱帯、南方に植栽

以上の他に、ヒノキ植林を中心とした太田賀山林内では、シロバイ、マンリョウ、サネカズラ、タブノキ、ツブラジイ、ヒサカキ、センリョウ、イチイガシ、ヨレスギなどの多くの常緑樹が見られた。写真のイズセンリョウやハスノハカズラは下層植生として一面に生え、よく緑の砂漠ともいわれるヒノキ植林とは一線を画す。下草刈りをほとんどしない、多様性を目指す森林施業の成せる技と驚かされた。一方、よく叫ばれるドングリの木の植栽は良いものと鵜呑みにしていたが、コナラなどにはアレロパシーがあり、その樹下には下草が育たない。放置すれば植生を貧弱にするばかりで、里山での計画的な（多様性を生み出すための長期的なビジョンに立った管理計画に沿った）人の手入れの必要性を強く感じた。まさに目から鱗！！

2日目の伊勢神宮関連の森では、寄進木が多く見られ、本当の自生地ではないものの、よく育っているところからこの地が暖温帯に属している証しともいえる。写真の木の多くは寄進されたものと思う。

せんぐう館では、式典に使われた道具が展示され、それらは古来の伝統的な技法によって、自然のものを実に上手く使って作られていた。例えば、弓（梓弓）はアズサ（ミズメ、ヨグソミネバリ）の枝を使って作るのだが、乾燥してしまうと折れやすいので、湿った状態で削り出すとか、太刀の柄（つか）の部分は硬いアカギで作り、さやの部分は柔らかくて作りやすく刃を傷めないところからホオノキで作るとか。また、金属の部分を金色に染めるのに、コシアブラやカクレミノから搾り取った樹液（樹脂＝金漆ごんぜつ）を塗り重ねるのだが、言葉だけでなく、その実際の色も確認できた。実際の色といえば、絹を染めるのに自然の草木を利用して染めた色も確認できた。藍色は蓼藍（タデ科のアイ）で、薄い黄色は黄蘗（キハダ）で、濃い黄色は梔（クチナシ）で、朱色は茜根（アカネの根）で、紫色は紫根（ムラサキの根）で、緑色は刈安（カリヤス）と蓼藍を混ぜたもので。それぞれ実に鮮やかな色！！いにしえの人が生活を豊かにするため、いかに自然とうまくつきあい、共に生きたか、そのことに思いを巡らせることのできた研修であった。謝謝。